

# 長畝ふるさと通信



【2020年10月号】

## ■ 苦しいR2年産米

稲刈りを終えホッとしたのも束の間、R2年産米の生産実績を集計してみると、コシヒカリの平均反収は昨年の7.61俵よりもさらに低い7.53俵しかなく、計画反収8俵には程遠い残念な結果となりました。それに加えてJAのコメ買上単価が前年より1俵当たり800円も下落したので、総生産量約6000俵で売上計算するとR1年産に比べて500万円近い落ち込みとなってしまいます。栽培にかかる経費は下がっていないので大打撃です。ここ数年の気象の変化によって作柄は安定せず収量は減少する一方で、コロナの影響で消費が冷え込み価格の下落が更に追い打ちをかけることができます。今年は7月後半の長雨の影響で写真のように稲の倒伏が激しく、収穫作業が難航しましたが、このままでは組合が倒伏しそうです。さて、どうするか・・・



## ■ 50万トン 異議あり 水田農業の将来は？

10月16日、農水省は来年の主食用米の適正生産量は今年より50万トン（新潟県のコメ生産量くらい）も少ない、679万トンとする基本方針を発表しました。面積にすると約10万haとなり、過去最高の減反面積となる見込みです。一方で小麦の輸入量は年間600万トン近くもあり、コメの生産量と匹敵しています。麦を輸入して国産のコメ生産量を減らしては、自給率が上がるはずがありません。パン屋さんやラーメン屋さんには何の恨みもありませんが、これではコメ百姓はやり切れませんわ。若い後継者が獲得できないのも無理のない事かも知れません。

## ■ そもそも論

今年はコロナの影響で人類がこれまでに経験した事の無い経済打撃を受けました。学校閉鎖で給食がストップし、緊急事態宣言で外食産業が立ち行かなくなったのですから、業務用米が消費されず、結果コメ全体が余るのは分かります。では、その間、国民は何を食べていたのでしょうか。色々調べてみると、信じ難い事実が…



そもそも、日本人の食事に欠かせないはずのコメ消費量は減少し続けています。今では国民一人当たり、年間54キロ程。1日お茶碗2杯です。ところが20代の食べ盛りの若者たちを調査すると、1カ月の間に男性は81.6%、女性は91.5%がコメを全く食べていないそうで…しかも別の調査では20代男性の約2割が1カ月間、コメを食べなかったという衝撃的なデータもありました。コメのご飯なしの生活を送っている

人たちが一定程度存在する事実に驚いた次第です。それには「食の多様化」という一言では済まされない社会的な様々な要因があるのですが(女性の社会進出による食事作りの簡素化や、家族の「バラバラ食」の進行など)、コメ百姓にしてみれば深刻な問題です。

## ■ コメ嫌いになった訳ではない

でも、日本人は決してコメ嫌いになったわけではないと思います。おにぎりや回転寿司は大人気だし、焼き肉屋でパンを食べる人を見かけた事も無い。ポク的には家でおかずがなければ麺類やパン食もアリですが、旨いおかずがあればやっぱりコメでしょう。日本人にとって「豊かな食生活」にはコメが必然だと思っています。「日本人は人類史上まれに見る食糧が満たされた時代に生きており、ご飯のおかわりが必要なくなった」と揶揄する人がいました。GO TO何とかでタダで回転寿司や焼き鳥が食べられると殺到する国民は豊かでしょうか…



美味しいごはんをおかわりして心豊かな生活を送りましょう。